

文部科学省

「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業

(学びの機会充実ネットワーク)」

令和7年度 成果報告書

岩手県教育委員会

1. 事業概要

1.1. 本事業に取り組む課題と目的

小規模校において、当該校の教員数が限られる中で、高等学校教育の質を確保し、進学や就職等、生徒の多様な進路希望の実現に対応できるよう、選択科目の設定等の教育環境の整備が必要となっているが、地理歴史、公民、理科、情報においては当該教科の教員数が限られ、学校内の教員だけでは生徒のニーズに応じた科目を設定することが困難な学校も多い。

また、不登校等の生徒や小規模専門高校において大学進学を希望している生徒、地域みらい留学 365 で本県小規模校に留学している生徒など、多様な背景を有する生徒の学ぶ機会の保障や生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の充実が必要である。

これらの状況を踏まえ、生徒の多様なニーズに応じた小規模校への遠隔授業を効果的に実施するための方策、配信拠点と受信校の体制等の課題を明らかにし、その解決を図る。また、配信拠点から生徒個別に遠隔授業や通信教育を行うための体制や方法を明らかにし、その解決を図る。

1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項

(1) 生徒の多様な学習ニーズに対応するため、教科・科目充実型の遠隔授業及び通信教育の効果的な実施形態に係る取組について

- ・ 小規模校への遠隔授業の効果的な実施のため、配信側の適切な機器の体制について明らかにすること。
- ・ 小規模校への遠隔授業の効果的な実施のため、受信側の適切な機器の体制、サポートする教員や職員の配置体制（配置の必要性の有無を含む）のモデルを構築すること。
- ・ 不登校等の生徒に対する遠隔授業、通信教育について、配信側及び受信側の適切な機器の体制、生徒のケアやフォローの在り方、教育効果について明らかにすること。

(2) 遠隔授業及び通信教育の配信拠点の体制の在り方に係る取組について

- ・ 遠隔授業の配信拠点として、受信校との効果的な連絡調整の体制や方法を明らかにすること、また、効果的な運営体制のモデルを構築すること。
- ・ 通信教育を行うための拠点として、受信校や対象生徒との効果的な連絡調整の体制や方法を明らかにすること。

(3) 域内ネットワークの在り方に係る取組について

- ・ 遠隔授業を受信する高校において効率的に実施していくための体制を明らかにすること。
- ・ 不登校等の多様な背景を有する生徒に対する遠隔授業や通信教育の実施のためのニーズの掘り起こし方法について明らかにすること、また、遠隔授業や通信教育の円滑な実施に向けた準備の手順等を明らかにすること。

1.3. ロードマップ

(1) 令和6年度

【遠隔教育に係る取組】

令和4年度から県立総合教育センター内に配信拠点を設置し、教育課程内での遠隔授業を実施してきた。配信拠点の設置場所に関する課題解消のため、県立高校内に配信拠点を移設する。

教育課程内での教科・科目充実型の遠隔授業を継続して実施し、効果的な実施形態、方法等について研究する。

【通信教育に係る取組】

各構成校及び1学年1学級校において、対象となる生徒の有無、希望する履修科目について調査を行う。また、対象となる生徒がいた場合、可能であれば、履修実施に向けて、通信教育に係る試行を実施する。

(2) 令和7年度

【遠隔教育に係る取組】

令和6年度に引き続き、小規模校への遠隔授業の効果的な実施のための研究を行う。受信校の教室に配置するサポート教員について、巡回型も含め、効果的な体制を試行、検証する。

【通信教育に係る取組】

各構成校及び1学年1学級校において、対象となる生徒の有無、希望する履修科目について調査を行う。令和8年度における教育課程内の取組に向けて、通信教育に係る試行を実施する。

試行の結果を検証し、次年度以降の本格実施に向けて課題の解決を図る。

また、自宅等で学習する生徒を想定した、メディア教材の開発による学習支援の研究を行う。

(3) 令和8年度以降

- ・ 令和7年度までの研究を基に、引き続き本県の小規模校を受信校に、配信拠点から遠隔授業を実施する。
- ・ 受信校の生徒のニーズに応えるために、受信校の拡充や配信教科の拡充を検討するとともに、配信環境や受信環境の改善を図る。
- ・ 多様な背景を有する生徒の学びの機会を保障するために、遠隔授業等を活用した学習支援体制の充実を図る。

2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

2.1. 調査計画

本県で導入した遠隔教育システムによる授業づくり、生徒の見取り、評価等について研究、検証を行う。関係者からのアンケートや聞き取りにより、随時評価・改善を行う。

運営指導委員会を開催し、委員を交えて取組を横断的に分析し、必要に応じて計画の修正を行う。

2.2. 実施体制

(1) 管理機関における実施体制

ア 管理機関の組織

(ア) 事業全体の統括

県教育委員会事務局学校教育室

(イ) 経理担当

県教育委員会事務局学校教育室

(ウ) 運営指導委員

高等教育機関（岩手大学、岩手県立大学など）やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の有識者から任命

イ 配信拠点（岩手県立杜陵高等学校）の組織

令和6年度途中まで、岩手県立総合教育センター内に配信拠点を設置していたが、令和6年12月に岩手県立杜陵高等学校内に遠隔授業配信拠点を移設した。配信拠点には遠隔授業の専任教員を配置する。専任教員の所属は杜陵高等学校とし、当該校の管理職が服務管理等を担う。

配信拠点の統括として遠隔教育サポートスタッフ（会計年度任用職員）を配置する。

ウ 事業の管理について

(ア) 管理機関

教育委員会内に設置されている、部署を横断したICT推進に関するプロジェクトチームにおいて情報共有を行うとともに、配信拠点とのオンライン会議を定期的実施し、事業内容の検討や事業の進捗状況等の管理を行う。

(イ) 運営指導委員会

管理機関の事業関係者、運営指導委員、構成校関係者等が一堂に会し、事業全体の評価を行う。

(ウ) 配信拠点

定期的（月に2回程度）に配信拠点関係者（遠隔教育サポートスタッフ、専任教員、管理職）が情報共有を行う。課題等について管理機関に報告し、管理機関は検討し随時対応する。

(エ) 構成校

校内で事業担当者を任命し、管理機関や配信拠点との渉外を行う。

2.3. 取組概要

○令和7年度

月	取組の内容
4月	<ul style="list-style-type: none">受信校サポートスタッフ連絡会議遠隔授業の配信の開始対面授業①
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none">対面授業②運営指導委員会第1回プロジェクトチーム会議
7月	<ul style="list-style-type: none">令和8年度受信科目希望調査
8月	
9月	
10月	<ul style="list-style-type: none">対面授業③不登校生徒及び病気療養中等の生徒に対する遠隔授業の実施に係る通知
11月	<ul style="list-style-type: none">対面授業④第2回プロジェクトチーム会議
12月	<ul style="list-style-type: none">令和8年度配信科目の通知（構成校へ）遠隔授業アンケート（受講生徒）※NPOカタリバのアンケートを活用
1月	
2月	<ul style="list-style-type: none">対面授業⑤副教材の購入に係る通知（令和8年度受信校へ）
3月	<ul style="list-style-type: none">新規受信校の環境整備遠隔授業に関する調査（受信校、配信者）

2.3.1. 遠隔授業実施表

中心拠点	受信校	教科名	教育課程 (※1)	科目	開設 学年	遠隔授業実施 理由	受信側の配置 体制(※2)	遠隔授業 実施回数/ 全授業回 数 (※3)
杜陵高校	葛巻高校	理科	教育課程内	物理	3	専門性	教諭	137/141
		情報	教育課程内	情報 I	1	専門性	教諭	63/68
	西和賀高校	地歴	教育課程内	地理総合	1	専門性	指導教諭及び教諭	64/69
		情報	教育課程内	情報 I	1	専門性	教諭	69/74
	花泉高校	地歴	教育課程内	地理総合	1	専門性	教諭及び支援員	64/69
		情報	教育課程内	情報 I	1	専門性	教諭及び非常勤講師	55/60
	山田高校	地歴	教育課程内	地理探究	2	専門性	教諭及び常勤講師	61/66
		地歴	教育課程内	地理探究	3	専門性	教諭及び常勤講師	59/63
		情報	教育課程内	情報 I	1	専門性	教諭及び常勤講師	59/64
	種市高校	情報	教育課程内	情報 I	1	専門性	教諭	67/72
	伊保内高校	地歴	教育課程内	地理探究	2	専門性	教諭及び常勤講師	61/66

※1 教育課程外で遠隔授業を行った場合、実施状況（夏期講座・補習等）を記入。

※2 巡回型を実施した場合、受信側の配置体制欄にその旨も付記。

※3 教育課程外の取組の場合、総実施回数のみ記載。

2.4. 取組内容

(1) 配信拠点の体制について

- ・配信拠点移設後の拠点校における配信担当教員の服務管理体制の整理
- ・配信担当教員及び遠隔教育サポートスタッフの配置

(2) 遠隔授業の環境整備について

- ・大人数の授業や演習を多く伴う授業のための環境整備

(3) 業務フローやルール等の検討について

- ・受信側サポート教員の業務について、統一した留意事項を作成

(4) 高校のニーズ把握について

- ・新規に実施を希望する学校を含めた、次年度の実施希望についての調査

2.5. 考察

2.5.1. 成果と課題

(1) 配信拠点の体制について

ア 配信拠点の移設

(ア) 移設の経緯

本県では、令和4年度に県立総合教育センター内に遠隔授業の配信拠点を設置し、教育課程内での遠隔授業の実施を開始した。遠隔授業配信担当として専任の教諭3名を配置した。教諭は、近隣の県立高校所属とし、勤務地を県立総合教育センターとした。

遠隔授業の配信を続ける中、次の課題が明らかになり、検討を重ねた結果、定時制と通信制を併置している県立高校内への移設を決定した。

- ・所属校と勤務地が異なることから、出張等、勤務管理の負担が大きい。また、教諭の帰属意識の醸成に課題がある。
- ・管理職が不在であり、構成校や管理機関との連絡調整に困難がある。

(イ) 移設の実施

令和6年5月から移設先高校及び配信教員と検討を重ね、令和6年12月までに、移設先高校情報処理室内に、配信ブース2台の設置が完了。別室1つと合わせて、3つの配信スタジオに配信用機器の移設も完了し、令和7年1月から新たな配信拠点校にある3つの配信スタジオからの授業配信を開始した。

(ウ) 新拠点からの配信

令和7年度は、年度当初から昨年度移設した拠点校内にある配信ブース等からの授業配信を実施した。配信教員の所属校と勤務校が一致することで、教員の出張等の勤務管理体制が整備できた。また、管理機関との連絡調整を円滑に行うことができるようになった。

今後、県立高校の小規模校化が進んでいく状況下では、遠隔授業を必要とする場面が増えていくことが容易に想定される。遠隔授業のニーズが高まるにつれ、配信教科・科目の拡充が求められ、それを可能するための配信スタジオの増設が必要となってくる。現在、拠点校には、3か所の配信スタジオを設けているが、新たな配信スタジオの整備について検討していかなければならない。

イ 配信担当教員及び遠隔教育サポートスタッフの配置

配信担当として専任の教諭3名を配置した。配置にあたっては、人事担当部署に依頼している。

遠隔教育サポートスタッフとして、会計年度任用職員1名を雇用し、配置している。ICT教育についての経験が豊富な管理職経験者を雇用している。主な業務内容は次のとおり。

- ・遠隔授業担当者のアドバイザーとして指導方法等について指導・助言する。
- ・配信拠点の遠隔授業に係る配信設備の管理に係る指導・助言を担当する。
- ・遠隔教育を実施していく中で明らかとなったハード・ソフト両面での課題を整理する。

(2) 遠隔授業の環境整備について

○ 大人数の授業や演習を多く伴う授業のための環境整備

小規模校において教員の数が限られる中、教育の質の保証を目的として、物理、地理、情報を配信している。必修科目である、地理総合、情報Iにおいては受講人数が多くなり（地理総合の最大受講者数40名、情報Iの最大受講者数40名）、また、情報Iにおいては教科の特性上、演習時間を多く確保することが望まれるところであり、授業実施上の工夫が研究課題である。

受講者数が多いことへの工夫

- ・受信教室に配置するサポート教員を2名に増員
- ・受信教室における大型モニターと1人1台端末の併用による、配信動画や資料の視認性の向上
- ・情報処理室の生徒端末画面を一覧できる学習活動支援システムを、配信担当教員の端末に画面共有し、生徒の活動状況を把握

演習を多く伴う授業の工夫

- ・授業を2時間連続とすることで細切れとしない十分な演習時間の確保

該当クラスの生徒アンケートの結果から、生徒による授業評価は概ね良好であった。

生徒アンケートの主な結果（※NPOカタリバ アンケートから）

（地理総合 40 名クラス）

- ・授業はわかりやすいですか。

わかりやすい	どちらかといえばわかりやすい	どちらかといえばわかりにくい	わかりにくい
68%	29%	3%	0%

- ・授業を受けて、この科目について興味が深まったと思いますか。

深まった	どちらかといえば深まった	どちらかといえば深まらない	深まらない
39%	50%	11%	0%

- ・授業について、どの程度満足していますか。

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満
68%	29%	3%	0%

（情報 I 40 名クラス）

- ・授業はわかりやすいですか。

わかりやすい	どちらかといえばわかりやすい	どちらかといえばわかりにくい	わかりにくい
47%	47%	6%	0%

- ・授業を受けて、この科目について興味が深まったと思いますか。

深まった	どちらかといえば深まった	どちらかといえば深まらない	深まらない
44%	44%	9%	3%

- ・授業について、どの程度満足していますか。

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満
53%	38%	9%	0%

また、配信担当教員から挙げられていた「生徒の表情の観察や発言の聞き取りに課題がある。」という課題に対して、受信教室内のカメラやスピーカーを増設し、授業を実施した。増設したことにより、若干の改善は見られたが、機器の配線が煩雑化する、データ処理に時間がかかるという課題が残った。

（3）業務フローやルール等の検討について

- 受信側サポート教員の業務について、統一した留意事項を検討

令和5年度までの取組において、サポート教員の授業中の支援等について高校により差があることが課題となっており、サポート教員の業務を統一し、より効果的な授業を実施するため、サポート教員留意事項を作成し、今年度も4月上旬に各構成校に通知し、オンライン説明会を実施した。

遠隔授業サポートスタッフに係る留意事項（抜粋）

- 1 遠隔授業は、毎回、授業開始の 15 分前に遠隔授業用のパソコン、カメラ、マイクスピーカー等の設置設定状況の確認、Teams への接続確認を行います。ネットワークの混雑状況やパソコンの不調により接続ができない場合は、電話連絡をお願いします。
- 2 生徒が一人一台端末を使用し、Teams を活用して授業を行う場合がありますので、ネットワークに接続し Teams が使えるように設定確認をお願いします。
- 3 生徒が 20 人を超えるような大人数の授業では、授業者から見えない部分、確認できない部分が多く出てきますので、サポートスタッフの皆様のご協力が必要となります。特に一人一台端末を使用する場面で生徒の進度に遅れ等がある場合は、補助的な指導をお願いします。また、全体の進度の状況等を適宜授業者に伝えて頂くようにお願いします。
- 4 授業者の声が小さい、音声が途切れる、字が見にくい、画面が暗い等がある場合には、遠慮なくご指摘願います。
- 5 成績評価については、実習の取組状況や成果についても参考にして評価を行いますので、サポートスタッフの皆様のご協力をよろしくをお願いします。
- 6 回線の混雑等により、通信状況が悪い場合は、速やかにホームルーターでの接続をお願いします。

この通知により、授業者から、サポート教員の授業への関与が高まったとの肯定的な意見が聞かれた。

(4) 高校のニーズ把握について

- 新規に実施を希望する学校を含めた、次年度の実施希望についての調査

次年度の遠隔授業の実施校、科目の決定のため、構成校 6 校と 1 学年 1 学級校のうち構成校以外の 7 校に希望調査を行った。

調査は 7 月に行い、配信担当教員の持ち時間数等を確認した上で、12 月に各校に次年度の配信科目を通知した。

なお、12 月の配信科目の通知の際に、併せて、使用教科書について通知し、2 月に使用副教材について通知している。

(5) 成果目標について

- 目標項目：遠隔授業による質の高い授業の実施状況

	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
目 標 値	/	85%	90%	90%
実 績 値	84%	89%	91%	/
目 標 設 定 の 考 え 方	遠隔授業により、生徒のニーズに応じた質の高い授業を行うことができたかを測るもの。			
成果把握のため の 測 定 方 法	遠隔授業を受信した生徒に対して、アンケート調査を行い、「遠隔授業により質の高い授業を受けることができたか。」の問いに対して、「できた」「まあまあできた」「あまりできなかった」「できなかった」のうち、「できた」「まあまあできた」と答えた生徒の割合を測る。			
目標達成に向けた 活 動 内 容 及 び 其 の 指 標	質の高い授業を実践できるように、効果的な実施方法について研究していく。			

2.5.2. 今後の方策

- ・ 今年度までの研究では、小規模校における遠隔授業の実施について、遠隔授業を受信している生徒の高い満足度が得られた。高い満足度を維持・向上しつつ、引き続き小規模校への遠隔授業を実施する。
- ・ 受信校の生徒のニーズに応えるために、受信校の拡充や配信教科の拡充を図っていく。
- ・ 課題として挙げた配信環境や受信環境の改善については、県全体でネットワーク回線の大規模改修を行い、通信環境の改善を図る。また、カメラとスピーカーが一体となっている機材を導入するなど、機器接続の簡略化及び配信者の機器操作の簡易化を進め、配信環境の安定化を図る。

3. 通信教育の実施やその運営体制に関する取組

3.1. 調査計画

小規模校に在籍している多様な背景を有する生徒の進路希望の実現のため、遠隔授業や通信教育による教科・科目の学びを通じた支援等について研究、検証を行う。関係者からのアンケートや聞き取りにより、随時評価・改善を行う。

運営指導委員会を開催し、委員を交えて取組を横断的に分析し、必要に応じて計画の修正を行う。

3.2. 実施体制

(1) 管理機関における実施体制

ア 管理機関の組織

(ア) 事業全体の統括

県教育委員会事務局学校教育室

(イ) 経理担当

県教育委員会事務局学校教育室

(ウ) 運営指導委員

高等教育機関（岩手大学、岩手県立大学など）やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の有識者から任命

イ 中心拠点（岩手県立杜陵高等学校）の組織

中心拠点は定時制と通信制を併置しており、不登校生徒等への理解・対応の蓄積を事業の計画・実施に活用できる体制を整える。

ウ 事業の管理について

(ア) 管理機関

事業全体の進捗を管理し、中心拠点と構成校の連携を推進する。教育委員会内の関係部署と随時情報共有を行い、課題の検討を行う。

(イ) 運営指導委員会

管理機関の事業関係者、運営指導委員、構成校関係者等が一堂に会し、事業全体の評価を行う。

(ウ) 中心拠点

副校長を中心として関係者が情報共有を行い、課題等について管理機関に報告する。

(エ) 構成校

対象となる生徒の状況、対応等について校内で情報共有を行う。副校長が管理機関や中心拠点との渉外を行う。

3.3. 取組概要

○令和7年度

月	取組の内容
7月	・ 各構成校及び1学年1学級校の対象生徒の把握調査
8月	・ 通信教育学習会
9月	・ 各構成校と協議
10月	・ 各構成校と協議
11月	
12月	
1月	・ 今後の取組の検討
2月	
3月	



3.3.1. 通信教育実施表

中心拠点 (※1)	受信校	実施内容 (※2)	教育課程 (※3)	対象生徒	開設 学年	通信教育実施 理由	実施場所	通信授業 実施回数/ 全授業回数 (※4)
杜陵高校		・通信教育は、実施なし ・受信校を含め県内の高校向けに通信制課程における学習についての学習会を実施						

※1 自校で通信教育を実施した場合は、中心拠点を空欄とし、受信校に実施校を記載。

その際、括弧で（自校）と記載。

※2 教科名と科目を記載。

※3 教育課程外で通信教育を行った場合、実施状況（夏期講座・補習等）を記入。

※4 教育課程外の取組の場合は、総実施回数のみ記載。

3.4. 取組内容

(1) 多様な背景を有する生徒のニーズの把握について

- ・対象生徒の調査

(2) 中心拠点、構成校、管理機関の連携体制について

- ・通信制課程における学習についての学習会を実施し、実施方法の検討

3.5. 考察

3.5.1. 成果と課題

(1) 多様な背景を有する生徒のニーズの把握について

- 対象生徒の調査

不登校等多様な背景を有する生徒の状況、及び、多様な教育ニーズの状況を把握するための調査を、構成校6校及び1学年1学級校を対象として令和7年7月に実施した。

調査項目

- Q1 令和7年度在籍生徒のうち、不登校、病気療養中、地域みらい留学365等、多様な背景を有する生徒について学年、状況等を記入してください。
- Q2 Q1で回答した生徒のうち、遠隔教育又は通信教育の実施を検討したい生徒を記入してください。

調査対象校、計13校のうち、Q2に該当する生徒が数名おり、詳細な状況の確認及び方針の検討のため、該当校と情報共有を行った。Q2に該当した生徒について、出欠席が不規則であり登校できる日もあることから、高校で様子を見つつ登校を支援していきたい等の状況であった。

調査及びその後の情報共有から明らかになったこと

- ・欠席日数が多い生徒の状況は、出席と欠席を繰り返す生徒や、午前は登校できないが午後から登校できる生徒など様々あり、生徒一人ひとりの状況に応じた支援の方法について慎重に検討する必要があること。
- ・生徒の状況は、対応を検討している間にも変化することから、事前の想定、連携方法の検討等が必要であること。
- ・年度途中から通信教育の手法を用いる場合の諸条件を整備する必要があること。

(2) 中心拠点、構成校、管理機関の連携体制について

○ 実施方法の検討

全日制課程における通信教育の活用にあたり、通信制課程における学びについて理解を深める必要があったことから、令和7年8月に、構成校を含め県内の高校教員を対象に通信教育学習会を実施した。学習会においては、特に、拠点校の通信制課程における単位習得までの流れについての説明を行った。構成校等においては、生徒のニーズに応じながら、通信教育の活用の方向性を検討した。

(3) 成果目標について

○ 目標項目：ニーズへの対応状況

	5年度（実績）	6年度	7年度	8年度
目標値		（ニーズの掘り起こし）	（試行的に実施）	100%
実績値	—	調査実施	調査実施、通信教育学習会実施	
目標設定の考え方	不登校等の生徒に対する遠隔授業又は通信教育について、取組の成果を測るもの。			
成果把握のための測定方法	各年度において、遠隔授業又は通信教育の受講を希望する不登校等の生徒が受講し、単位を修得した生徒の数を測る。			
目標達成に向けた活動内容及びその指標	各年度において、構成校の不登校等の生徒に対して、遠隔授業又は通信教育の受講に向けた希望調査を行い、受講を希望する生徒に対しては、受講につなげるように取り組む。			

3.5.2. 今後の方策

- ・ 多様な背景を有する生徒の様々な状況に応じた支援の方法について、慎重に検討が必要である。生徒の学びの機会を保障するために、各校において、様々な生徒に向けた支援体制が構築できるよう、通信教育に関する学習会などを開催する。
- ・ 全日制課程において年度途中でも通信教育を展開できるようにするために、単位認定に係る校内規則を改めることや、通信教育を行う生徒を決定する際の条件や手続き等の整備を行う。

4. まとめ

(1) 遠隔教育に係る取組の成果と課題

ア 主な成果

- ・ 事業開始当初の課題解決のため、配信拠点を移設し、新拠点となる県立高校内から配信を開始
- ・ 効果的な授業のため、授業の特性に応じて、1人1台端末の活用、2時間連続の授業等の工夫
- ・ サポート教員の業務を統一し、より効果的な授業を実施するため、サポート教員留意事項を作成

イ 今後の課題

大人数の授業について、1人1台端末の併用、カメラやスピーカーの複数台配置等の工夫をしたが、生徒の学習状況の確認には、生徒の動きを捉えるカメラや発言する生徒の声を適切に処理できるスピーカーの設置、そのデータ処理に耐えるネットワーク回線の増強など、さらに工夫が必要

(2) 通信教育に係る取組の成果と課題

ア 主な成果

- ・ 各校のニーズ把握とその後の状況の聞き取りから、今後の検討事項が明らかになった。
- ・ 通信教育学習会を開催することで、通信制課程における学びの流れについて共通理解を図ることができた。

イ 今後の課題

- ・ 生徒一人ひとりの状況に応じた支援について、十分な検討が必要
- ・ 全日制課程において、年度途中から通信教育の手法を用いる際の諸条件の整備

5. 本事業の成果と課題を踏まえた今後の方向性

本県では、広域かつ地理的条件の厳しい地域が多く、人口減少の進行に伴い高校の小規模化が着実に進んでいる。小規模校によっては、各校の教員配置が限られ、特に専門性の高い教科において、必要な科目を十分に提供できない事例が生じている。こうした状況は、生徒の進路希望の多様化が進む中で、必要な学びにアクセスできないという構造的な教育格差を拡大し、若者が地域で将来の進路を描きにくくなる状況を生み出し、県全体の持続的発展に深刻な影響を及ぼす可能性がある。

県教育委員会においても、小規模校では教員数の制約から科目設定が困難であることを課題として示しており、令和3年度から「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」、令和6年度から「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業」に取り組み、教育課程内での遠隔授業を実施してきた。

また、不登校など多様な背景を有する生徒も増えており、多様な学習ニーズをもつ生徒への機会保障を課題として位置づけ、遠隔授業の配信拠点を、従来の県立総合教育センター内から、定時制・通信制課程を有する県立高校内に令和6年度に移設した。

高校の小規模化や多様な学習ニーズの高まりは今後も進展することが予想され、すべての生徒が必要な学びを継続できる遠隔教育の拡充は、人材育成上の喫緊の課題である。

今後は、国の「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」を活用しながら、多様な教科・科目の配信を、より多くの必要とする高校に対して可能にする体制を整備する。本事業により配信

拠点を強化することで、県内のどの地域に住む生徒も、地理的条件や学校規模に左右されることなく質の高い授業へアクセスできる環境を実現する。

さらに、本事業ではフリースペースを併設し、不登校傾向の生徒や、対人関係・心理的要因で悩みを抱える生徒が、オンライン学習と対面相談を組み合わせながら安心して学び続けられる体制を整えることで、誰一人取り残さない学びを支える仕組みを構築する。遠隔授業を単なる科目提供の手段ではなく、多様な学習背景をもつ生徒に寄り添う柔軟な学びの基盤として機能させる。

本事業による配信拠点の再整備、科目拡大や相談体制の強化は、地域間格差の是正や多様な背景を持つ生徒の学びの保障に直結するものであり、岩手県の教育環境を抜本的に改善する基盤となると考えている。